

《蘇州日本人学校教育目標》

未来に向かい 明るく 元気で 心豊かな子どもの育成

平成29年12月23日

【発行者】

蘇州日本人学校
校長 中西太加夫

ゆく年 くる年 ～よいお年をお迎えください～

今年も残すところ一週間となり、「光陰矢のごとし」の意味をしみじみと感じます。学校の運動場では、冬の寒さを吹き飛ばし、体育の授業や休み時間に元気に活動する子どもたちの姿が見えます。その子どもたちが楽しみにしていた冬休み、年末年始がいよいよやってきます。通知表については、この柳風で以前書きましたが、家族で2学期を振り返るきっかけにさせていただき、3学期へとつながる励みにしてください。この冬休みはふだんの学校生活では学べないことを家族で体験し、子どもの興味、関心のあることに取り組んでほしいと思います。3学期始業式には、児童生徒全員が、笑顔で新年のあいさつができることを楽しみにしています。



蘇州に住み、蘇州を知る ～現地校との交流を通じて～

日本人学校の特色ある学校づくりのひとつである現地理解教育として、現地校交流という行事があります。蘇州に住み、学んでいる蘇州日本人学校の児童生徒が、ここ蘇州の学校で学ぶ同年代と友だちになり、交流を深めるものです。これまで学んできた中国語、英語を使ってコミュニケーションをとることにより多文化共生を肌で感じ、グローバル人材への第一歩と位置づけています。今年度も12月、小学部は低学年、中学年、高学年の二学年ごとに胥口中心小学と交流活動を行うことができました。手作り名刺を交換して自己紹介から始まり、歌、合唱、ダンスなどを披露しあったり、それぞれの国の遊びやスポーツで文化交流したりするなど、学年に応じて工夫した交流のひとつを過ごしました。中学部は、蘇州外国語学校と姉妹校締結調印式を行い、合唱、ソーラン、ピアノ演奏、ミニ運動会などを通じて、交流をより一層深めることができました。

また、今年度より新たに、科技城外語学校の日本語専修コースの生徒と本校小学部6年生の現地校交流を始めました。毎日1時間、日本語を授業で学習している生徒たちの実践の場でもあり、中国語、日本語、それぞれが同じように外国語として学ぶ立場の子どもたちが、2ヶ国語を織り交ぜて交流する試みでした。

蘇州に住んでいるだけではなかなか得ることのできない人と人との交流を、それぞれの学校で大切に育んでいきたいと思います。

